



黒煙をなびかせ、桃の花咲く甲府盆地を駆け抜ける

「デゴイチ」の名で親しまれている蒸気機関車D51が4月、山梨デスティネーションキャンペーンのオープニングイベントとして、JR中央本線の甲府―塩山間に姿を見せました。山梨を蒸気機関車が走るのは実に38年ぶり。「SL山梨桃源郷号」と名付けられた機関車は、鉄道ファンをはじめ県内外から訪れた多くの人たちに見守られながら、約12kmの道のりを走り抜けました。

甲府盆地を走った蒸気機関車は「D51 498号機」。1940年に神戸の鉄道省鷹取工場で製造され、岡山・大阪・新潟など各地を走り続け、1972年に現役を引退。その後、上越線の駅構内で保存されていましたが1988年に復元され、JR東日本の臨時列車やイベント列車として活躍しています。

桃の花咲く中を駆け抜けるデゴイチ。その姿は、往年を懐かしむ大人にはもちろん、蒸気機関車を初めて見た子どもたちにとっても、胸躍るものだったに違いありません。